

<テーマ>

昨年、コロナ禍→歌っちゃいけない、出歩るかない、レストランも映画も飲み会もダメ。あきらめムードの中、リモートでホールからライブ配信できると知った時の喜び。テーマはああ、「会いたい」みんなに!

今年、まだ、コロナが収まらない。離れていても心は一緒。今年はリモートでより存在を身近に感じられる、そんなふれコンに照準を合わせる。今年のテーマは「一步前へ!」。どんな状況であろうと、情熱を絶やすことなく前を向いて歩んでいくんだ。



<ふれコンのあゆみ>

1981年の「国際障害者年」に県のイベントとして生まれ、次年度からボランティアによる実行委員会が運営し、今年で41歳!

当初は障害者を一般の人が支えることで始まりました。詩や曲の募集、ホールでのコンサートやミュージカルの継続、伝達手段の広がり、インクルーシブ社会への変化を受け、今では、北海道から沖縄まで幅広く参加し、障害のある人もない人も、アマもプロも、人々の中にある垣根を超えて音楽を通して同じ時間と場所を共有するようになりました。



<ふれコンとは?>

障害があつてもなくても、コンサートやミュージカルを通して、お互いに交流し、一緒に生きていくことを目指しています。1年をかけて、オリジナルな『コンサート』と『ミュージカル』を準備し、創る人、演じる人、聴く人、支える人がそれぞれの小さな関わりをつむぎ、お互いを知っていくこの道程がお互いの理解につながっていきます。これがふれコンの魅力。コンサート当日は、その思いを結集し、メッセージとして発信。みんなで盛り上がり、みんなで味わい、その余韻とともに次年度が始まります。

<今年の見どころ>

2年ぶりの詩募集の再開。支援学校の卒業生の応募が多く、また、バラエティに富んだ曲や、コロナに関する曲も寄せられ、どれも傑作ぞろいの中から、11曲を選びました。

コロナ禍でも未来への希望を胸に、心豊かに生きていきたいという思いや、インクルーシブな社会への願いが散りばめられ、プロのミュージシャンや高校生がボーカロイドで作った曲もあります。みんな素敵なふれコンの仲間たちです。



実行委員長です！
ふれあいの輪が広がりますように！

横山マリア
2014年の出演をきっかけに、私の中で何が変わりました。踊るような言葉の数々、聞こえなくてでも声が見える少女...魂が揺さぶられるようなふれコンは、私にとって音楽の原点です。

高橋真理子
「星つむぎの歌」では、様々なイベントにふれコンの皆さんが歌と手話で参加してくれました。「すべての人に星空を」というメッセージのもと、みんなで心をひとつにして、明日に向かって星をつむいでいきましょう。

特別ゲストからのメッセージ

岩崎けんいち
ふれコンで出会った人たちは、障害なんて関係ないって思うほどパワーに満ちていて、嫉妬さえ感じています。

僕も負けないぞ～
という気持ちでステージを盛り上げます！



写真は昨年度の様子です

ふれコン公式 HP www.furekon.net

問い合わせ： 山の都ふれあいコンサート実行委員会

info@furekon.net / 080-2055-1121

